

入繪  
智  
慧  
の  
環

四編下

詞の巻

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

登錄 番号	第	號
	總記	門
	叢書全集	部
日本 図書	叢書	部
	II	次
全	冊	第
分 類	第	號
	(81.2)	

T1A1

10  
F 93e

29

U.

子  
五  
ノ  
口

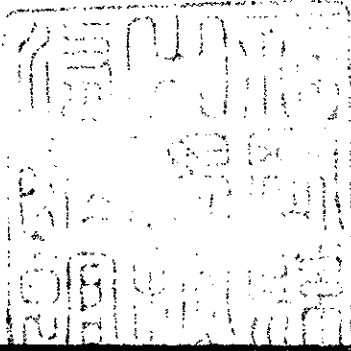
四編下  
詞ノ卷

函書 和函書 迦



a 1 3 8 0 3 2 1 1 3 1 a

福岡教育大学蔵書



音のふり

複音の <sup>カ</sup>カ <sup>キ</sup>キ <sup>ク</sup>ク <sup>ケ</sup>ケ <sup>コ</sup>コ <sup>カ</sup>カ <sup>キ</sup>キ <sup>ク</sup>ク <sup>ケ</sup>ケ <sup>コ</sup>コ <sup>カ</sup>カ <sup>キ</sup>キ <sup>ク</sup>ク <sup>ケ</sup>ケ <sup>コ</sup>コ  
 カサタナハマヤラワ <sup>カ</sup>カ <sup>キ</sup>キ <sup>ク</sup>ク <sup>ケ</sup>ケ <sup>コ</sup>コ <sup>カ</sup>カ <sup>キ</sup>キ <sup>ク</sup>ク <sup>ケ</sup>ケ <sup>コ</sup>コ  
 フムル <sup>フ</sup>フ <sup>ム</sup>ム <sup>ル</sup>ル <sup>フ</sup>フ <sup>ム</sup>ム <sup>ル</sup>ル <sup>フ</sup>フ <sup>ム</sup>ム <sup>ル</sup>ル  
 タの <sup>タ</sup>タ <sup>チ</sup>チ <sup>ツ</sup>ツ <sup>テ</sup>テ <sup>ト</sup>ト <sup>タ</sup>タ <sup>チ</sup>チ <sup>ツ</sup>ツ <sup>テ</sup>テ <sup>ト</sup>ト  
 み <sup>ミ</sup>ミ <sup>メ</sup>メ <sup>ム</sup>ム <sup>モ</sup>モ <sup>ミ</sup>ミ <sup>メ</sup>メ <sup>ム</sup>ム <sup>モ</sup>モ

福岡教育大学蔵書





ア イ ウ エ オ      あ い う え お  
ヤ シ ュ 氏 ヨ      や し ぢ よ  
ロ 井 于 エ ラ      わ 為 乃 忍 夜  
と か き なき を まり

お前のトおどのとよ言えりあま  
あまよま *Amo* へよのよ

お前の *Amo* の こと

お前の *Amo* とこの *Amo* の *Amo* を *Amo* と  
といふ、それよりこの *Amo* を *Amo* と  
やうよみおれよおのよと *Amo* 夫 *Amo* 夫 *Amo* 夫 *Amo*  
や *Amo* の *Amo* を *Amo* と *Amo* 夫 *Amo* 夫 *Amo* 夫 *Amo*  
おづる *Amo* の *Amo*

- 一 *Amo* の *Amo* の 類 *Amo* の *Amo* 夫 *Amo* 夫 *Amo* 夫 *Amo*
- 二 *Amo* の *Amo* の *Amo* の *Amo* 夫 *Amo* 夫 *Amo* 夫 *Amo*

三 おのづからある なたらまことば

一

おのまゝ なたらまことば (他動詞ともいふ)

おのまゝ こそ おのまゝのまゝ こそ とうとうかまゝと

いふ こそあり

ものまゝ なたらまことば こそ かつ 罰を する かの 大い

いふ ひと やまの かの ひと やまを あまふ こと

いふ こと を いふ こと は あり

大郎が いぬ を うつ

天と悪人を罰を

極どが ぬき

を うつ ちを いふ こと ちを うつ こと と ひと やまの

の、おかの ひと やまの かの こと、なたらまことば、いふ ことば あり、  
この ことば、大郎の なたらまことば、いぬ、大の なたらまことば  
悪人、いぬ、おかの なたらまことば、ねむ、いぬ、あり

この ことば の なたらまことば と ちを うつ こと する こと あり  
第四格 を うつ

二

おのまゝ なたらまことば (所動詞ともいふ)

おのまゝ なたらまことば こそ ちを うつ ことば あり、  
おのまゝ なたらまことば ひと やまの、おのまゝ ひと やまの、

あふとくせうとせりよそふあり、このあふとくを  
しめする ちかきことばの うらあふ

たふとく いぬが太郎よりあふ 悪人と天とあふ

てふが かせよちうさうく あぶりと危と、ひやあふの

あふの ひやあふのよ ちかきあり

このあふの ちかきことばとあふたふのよふと第三格  
をうく

三 おのづからある ちかきことば 自動詞より

おのづからある ちかきことば ひりやまどうとかある ことば

ちかきことば

おのづからある ちかきことばとね あふとくのぞい

ひやあふの ひりやま どうとかあるをひりやま

たふとく ひりやま あふとく あふとく あふとく

ね あふとく あふとく あふとく あふとく あふとく

まをひりやま あふとく あふとく あふとく あふとく

あふとく あふとく あふとく あふとく あふとく

あふとく あふとく あふとく あふとく あふとく

あふとく あふとく あふとく あふとく あふとく

あふとく













いづつある々とひひるをせよをやはるぶまといよ  
まをせよをやはるまをやはるといよ  
ごよし

第一格のむすつまよはとかあふばまうそをばと  
あるあり。このはむすつまよむまびのまをまをばの  
かまをそをば。第一格をむすつまよをばの  
うらまよはむすつまよをば。このはむすつまよ  
むまびのまをまをばをまをばあり

○第一格はむすつまよはむすつまよのむすつまよ

むすつまよのむすつまよのむすつまよ

むすつまよのむすつまよのむすつまよ  
これとはむすつまよのむすつまよ  
そのむすつまよのむすつまよのむすつまよ  
つまよをむすつまよのむすつまよ

三	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと
三	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと
三	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと	ひと

むすつまよのむすつまよのむすつまよ



三 一をどよせきさうに下ばしふるある。またある

三 せね 三 せぬ 三 せね

三 せぬ 三 せぬ 三 せぬ

三 けり 三 けり 三 けり

三 けり 三 けり 三 けり

三 けり 三 けり

三 けり 三 けり

三 けり 三 けり

三 けり 三 けり

三 けり 三 けり 三 けり 三 けり 三 けり

三 けり 三 けり

三 けり 三 けり 三 けり 三 けり

三 けり 三 けり 三 けり 三 けり

三 けり 三 けり 三 けり 三 けり

三 けり 三 けり

三 けり 三 けり

三 けり 三 けり 三 けり 三 けり

三 けり 三 けり

三 けり 三 けり 三 けり 三 けり













四だんの ちんちんこぼ

こまのひたよりて、まゝまゝカキクケまゝをサレ  
ス。あどと第一のこまより、第二のこま、第三の四だん  
まゝかゝるこぼあり

一だんの ちんちんこぼ

こまのひたより、こまのこまは、このこまを、まゝまゝ  
かゝるこま、ひたより、まゝまゝまゝまゝまゝ  
とあるこまはあり

中二だんの ちんちんこぼ

こまのひたより、まゝまゝと、中二だんのこまのこまを  
かゝるこま、そのまゝまゝと、まゝまゝあり

下二だんの ちんちんこぼ

こまのひたより、まゝまゝと、下二だんのこまのこまを  
かゝるこま、まゝまゝと、まゝまゝあり、まゝまゝ  
まゝの表をみて、まゝまゝ

片假名

	下に二のんは	中二のんは
うえ まき かき え	かき まき え	かき まき え
よんぬトむでど	よんぬトむでど	よんぬトむでど
まて	まて	まて
しきりるるる	しきりるるる	しきりるるる
うか まか あか うか まか あか	うか まか あか	うか まか あか
えじまと	えじまと	えじまと
かき まき あか うか まか あか	かき まき あか	かき まき あか
まかまかまか	まかまかまか	まかまかまか
かき まき あか うか まか あか	かき まき あか	かき まき あか
まかまかまか	まかまかまか	まかまかまか

三十二

	下に二のんは	中二のんは
うえ まき かき え	かき まき え	かき まき え
よんぬトむでど	よんぬトむでど	よんぬトむでど
まて	まて	まて
しきりるるる	しきりるるる	しきりるるる
うか まか あか うか まか あか	うか まか あか	うか まか あか
えじまと	えじまと	えじまと
かき まき あか うか まか あか	かき まき あか	かき まき あか
まかまかまか	まかまかまか	まかまかまか
かき まき あか うか まか あか	かき まき あか	かき まき あか
まかまかまか	まかまかまか	まかまかまか

正格のてろまてまての表

片假名



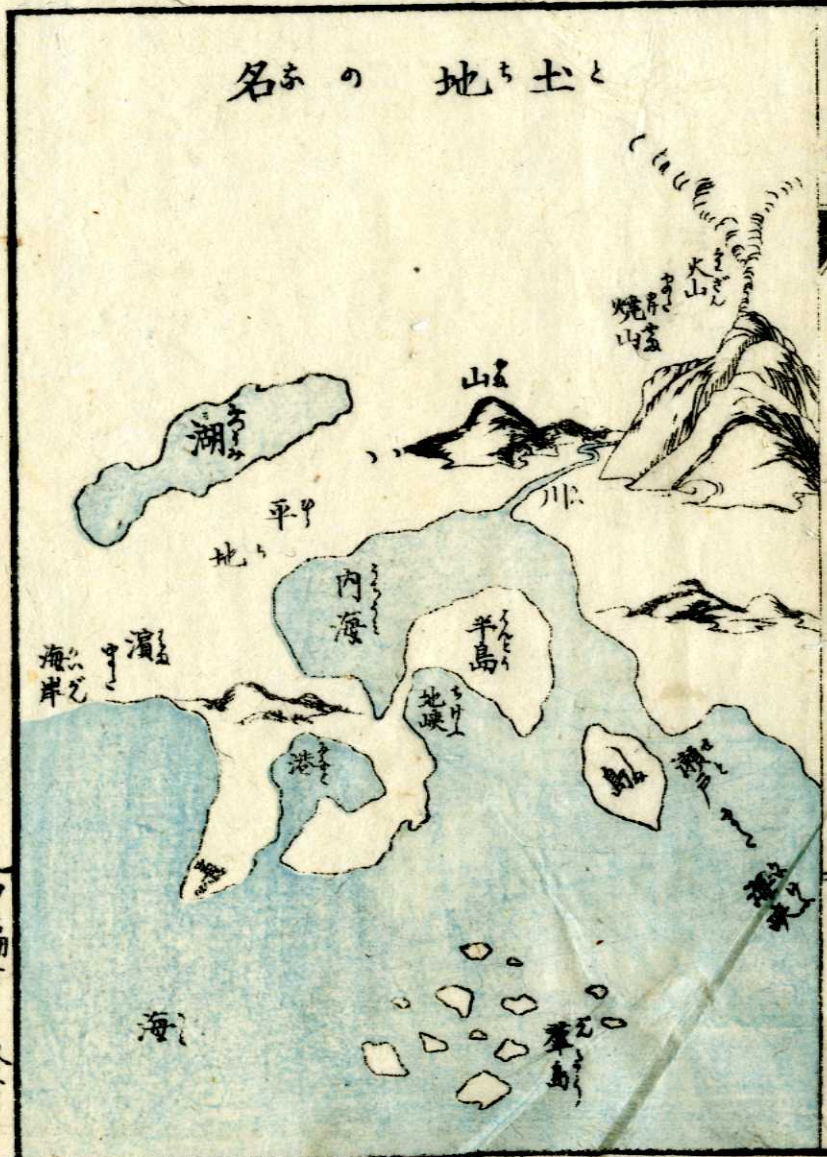








名の地と土と



四編下終

明治五年壬申五月刊行  
同六年五月再版

古川氏藏板



賣弘所

岡田屋

嘉七